

令和6(2024)年度ファシリテーションパワーアップ講座③実施報告

実施日：令和7(2025)年1月30日

この研修では、地域の人々が自ら主体的に地域課題を解決できるように、地域活動を志す方々が地域課題解決に向けた活動を行うための学習プログラムを企画・進行するための知識と技術を習得します。第3回は、5名の方が御参加くださいました。

○ 演習「ファシリテート体験～考えたプログラムをファシリテートしてみよう～」

総合教育センター職員

自分で考えたプログラムをファシリテートすることで、受講者自身の活動に生かせるファシリテーションスキルにしていくための演習を行いました。演習の進め方、参加する上での約束を確認した後、チェックインとして自己紹介タイムを行いました。名前・所属、休日の過ごし方、今日の研修で期待していることを述べ合うことで、少しずつ緊張がほぐれていく様子が見られました。その後、第2回の振り返りとして、プログラムが、企画者のねらい・目標、参加者のアウトカム、内容・問い、空間デザイン等で構成されていることを確認しました。そして、「テーマとしての問い」「オリエンテーション」「インストラクション」など振り返りの視点について説明がありました。



ファシリテート体験は、2グループに分かれて行いました。「子育て支援」「国際交流」「学校支援ボランティア参加者募集」など、各自で作成したプログラムを基に、30分間のファシリテート体験と20分間の振り返りを実施しました。ねらいに迫るための問いについて工夫している様子が見られ、これまでに学んだことを生かして、ファシリテーターとして話し合いを支援することができていました。振り返りでは、キープ（継続・模倣）ポイント＆トライ（改善・挑戦）ポイントを挙げながら、体験を通じて感じたことについて2つの視点に沿って熱心に話し合っていました。



○ 協議「演習を振り返って」

これまでの研修で学んだことや、ファシリテート体験についての振り返りを行いました。3回の研修を通して、ファシリテーターとして学習プログラムをどのようにファシリテートしていけばよいのかという気付きや、学んだことを自身が行っている講座などで今後どのように生かしていきたいかなどについて話し合っている姿が見られました。温かな雰囲気の中にも、今後ファシリテーターとして、プログラムのめあてが達成できるように支援をしていきたいという意気込みが感じられました。これまで研修で学んだことを生かし、それぞれの場での活躍を期待しています。

★ 受講者の声 ★

- ・テーマの設定やアウトカムへの意識の大切さを改めて感じました。
- ・マンネリ化したファシリテーションではなく、新たなデザインを考えたいです。
- ・受講者が講座の内容を自分に落とし込むことができるようにしていきたいです。
- ・ファシリテーターとしてやるべきことが明確になりました。
- ・学校の先生によりよい話し合いの場をつくれたらいいなと思っています。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL: 028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp